

四川省在住の大川さんから四川大地震で壊滅した、当地の交通網復旧のルポを頂きました。

昨年5月12日の地震から1年2ヵ月ぶりに都江堰～映秀～臥龍～巴郎山のルートを通りましたので状況を取り急ぎご報告します(2009年7月5日)。

1. 都江堰

鉄筋コンクリート建て家屋が多い都江堰の町はほとんど地震以前と同じで、見慣れたバスステーション界限でも建物の一部に壊れた箇所が見えただけでした。

テレビ放送されていた倒壊した家屋は建築工事上の問題(当地では少なくない)が大きかった一部の建物に限られるように見えました。



2. 都江堰～映秀

地震による山崩れで岷江に沿った従来の道が使えなくなったため、都江堰～映秀の区間はほとんど地震前から建設中だったトンネルの中です。

これは今年5月に開通した岷江の北側をショートカットするルートで、地震の原因とされて(中国国家地理2008年6月号)水位を下げた新しいダムを横切りました(地震直前に完成していた横断橋)。風景は楽しめませんが、所要時間が地震前の1時間から15分に短縮されました。

3. 映秀～臥龍

トンネルの外へ出たら、そこが臥龍溪谷の入り口でしたが、景観が一変していて何処に出たのか判りませんでした。

樹木に覆われた美しい溪谷は姿を消し、地震による地滑りで脆い岩肌が露出した急斜面が続く殺風景な谷に変わっていました(写真1)。

道路脇には大きな岩が堆積し、谷の斜面は雨が降ったら落石や土石流が頻発しそうな事が一見して判りました。

ショベルカーやブルドーザーが彼方此方で作業して



写真1 樹木に覆われた美しい溪谷は姿を消し、地震による地滑りで脆い岩肌が露出した急斜面が続く

いますので落石や土石流は直ぐに片付けられますが、雨が沢山降っている最中は通らない方が良いです。

このような状況では川岸に沿って道を復旧しただけでは危なくて通れない箇所が多いため、要所要所でトンネルが掘られていました(これを見て都江堰～映秀の道路がほとんどトンネルの中だった事と中々臥龍ルートを正式開通できない事に納得がゆきました)。川岸に沿った道では彼方此方で崩れた斜面を護る工事が進められ、短時間ですが数ヶ所で待たされました(写真2)。

崩れ落ちた岩が川を埋めて水位が上がったために住宅の廃墟の中を川の濁流が洗っている所もありました(写真3)。

破損したため水門を開け放ったダムも見えました(写真4)。

地震による大規模な地滑りは臥龍の手前の耿達(映秀

から約20km)までで、それから奥では急減しています。道路も問題なく走れました。

臥龍^{パンダ研究中心}熊猫研究中心の周辺でも地滑りはほとんどありませんでしたが、パンダは雅安へ避難したままで門が閉じられ閑散としていました(パンダが初めて見つかったのは雅安の山奥で、臥龍と同じ研究中心があります)。臥龍の町の民家のほとんどは崩れたそうで急ごしえの集合住宅が並んでいましたが、2000年代に建てられた博物館等の鉄筋コンクリートの建物はほとんど壊れていませんでした。この辺の事情は都江堰や四姑娘山の日隆と同じようです。

4. 臥龍～日隆

臥龍から巴郎山にかけての地滑りは更に少なかったです。

地震の前から続けられている道路の拡幅工事が未だ終わらず舗装もされていませんが、道が広くなった場所が多いので通り易かったです。

映秀から日隆までの所用時間は道路工事の待ち時間を含めて5時間30分でした。巴郎山では青赤黄の3色のポピーの花が見ごろでした。

●大川さんのホームページはこちら

蜀山女神-四姑娘山

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>

王女谷-東女国残影

<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvally.htm>



写真2 川岸に沿った道では彼方此方で崩れた斜面を護る工事が進められ、短時間だが数ヶ所で待たされた



写真3 崩れ落ちた岩が川を埋めて水位が上がったため、住宅の廃墟の中を川の濁流が洗っている所もあった

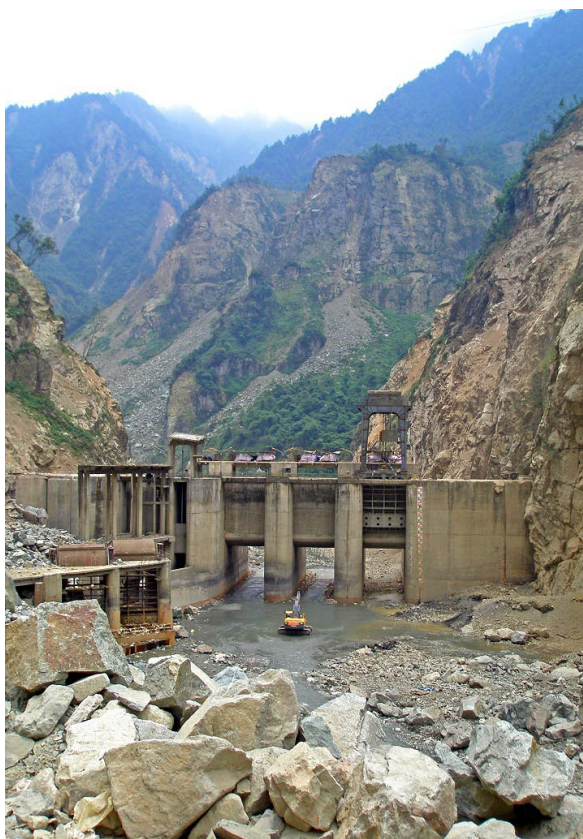


写真4 破損したため水門を開け放ったダムも見えた